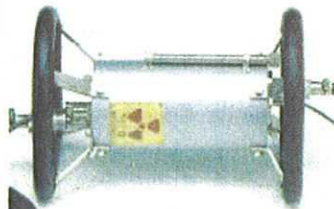


だれ?なぜ?

千葉で放射性イリジウム盗難



防犯カメラがとらえた容疑者の姿＝千葉県警提供



盗まれた検査装置。円筒部の中に放射性物質が入っている＝文部科学省提供

千葉県市原市で今月初め、放射性物質が入った特殊な検査装置が検査会社から盗まれた。犯行時間わずか1分という手口に加え、扱い方によっては人体にも危険な機械で、関係者は「誰が何のために」と首をかしげる。県警は11日、「社内関係者がかかわった可能性は低く、捜査の対象を広げる必要がある」として、防犯カメラに映った画像の公開に踏み切った。

(長崎潤一郎、有近隆史)

事件が起きたのは5日午前1時40分ごろ。検査会社「非破壊検査」の1階にある保管庫から、放射性物質が入った

容器28個のうち1個が持ち去られた。その間わずか1分。保管庫内の防犯カメラに映っていた侵入者は、黒色の野球

容器壊れると健康被害／「利用方法なし」

ある鍵箱に入っていた。鍵箱を開けるには、3けたの暗証番号が必要だ。犯人は、これも難なく開けて盗み出し、使用後、元に戻している。

こうした状況から、県警は内部事情に詳しい人物の犯行との見方を強めているが、これまでの調べでは、「同社従業員の可能性は極めて低い」(捜査関係者)という。防犯カメラが設置されたのは3月で、「犯人はそれを知らなかった可能性もある」(同)。

鍵箱の暗証番号は約20年前から同じで、県警は、元従業員や出入り業者を中心に捜査している。対象者約200人のうち、4分の1程度まで調べが進んでいる。

さらに不可解なのは、その目的だ。盗まれたのは、放射線で物体内部の傷や劣化を調べる装置の一部だ。長さ40センチ、直径27センチ、重さ22キログラムの容器の中に、2、3四方の放射性物質イリジウム192の金属棒が入っていた。

検査には、盗まれた容器以外にケーブルやリモコンが必要で、同社は「買いつかず、金銭的な価値はない」と不思議がる。容器は製造番号などで管理されており、転売も事実上不可能という。

放射線医学総合研究所の緊急被ばく医療研究センター(千葉県稲毛区)によると、容器が盗まれた当時の状態であれば、被曝量は1分離れた場所ですら1時間あたり7シーベルト。人が自然界で浴びる放射線は年間に約2400マイクロシーベルトなので、人体への影響はほとんどないと言える。

しかし、容器が壊れてイリジウムが露出していると危険だ。明石真言・同センター長は「さわることはもちろん、決して近づかないで欲しい」という。

近づくば近づくほど、人体への危険が高まる。10センチまで近づけば、1時間あたりの被曝量は4・33シーベルト。99年に茨城県東海村のウラン加工施設で起きた臨界事故で、約3カ月入院した現場リーダーの被曝量は最大で4・5シーベルトだったとされる。触れば、臓器障害を起こすガンマ線に加え、皮膚障害を起こすベータ線にも被曝する。

明石センター長も「使い方を知っている人が、自分の家でも検査しようとしているのか。一般の人の利用方法は無い」と首をかしげる。

イリジウムの入った装置の盗難事件は、74年8月、関西電力美浜発電所(福井県)でもあった。ゆすり目的の盗みで下請け業者の元従業員ら3人が起訴された。イリジウムも無事発見されている。

帽をかぶり、青色系の作業着姿。横顔から男とみられる。用意周到とも言える手際の良さだった。保管庫に入るには、ドアの鍵と、内部の防犯装置を解除するカードキーが必要だ。この二つの鍵は、社屋の隣の社員寮の玄関付近に

器の中に、2、3四方の放射性物質イリジウム192の金属棒が入っていた。

検査には、盗まれた容器以外にケーブルやリモコンが必要で、同社は「買いつかず、金銭的な価値はない」と不思議がる。容器は製造番号などで管理されており、転売も事実上不可能という。

放射線医学総合研究所の緊急被ばく医療研究センター(千葉県稲毛区)によると、容器が盗まれた当時の状態であれば、被曝量は1分離れた場所ですら1時間あたり7シーベルト。人が自然界で浴びる放射線は年間に約2400マイクロシーベルトなので、人体への影響はほとんどないと言える。

しかし、容器が壊れてイリジウムが露出していると危険だ。明石真言・同センター長は「さわることはもちろん、決して近づかないで欲しい」という。

近づくば近づくほど、人体への危険が高まる。10センチまで近づけば、1時間あたりの被曝量は4・33シーベルト。99年に茨城県東海村のウラン加工施設で起きた臨界事故で、約3カ月入院した現場リーダーの被曝量は最大で4・5シーベルトだったとされる。触れば、臓器障害を起こすガンマ線に加え、皮膚障害を起こすベータ線にも被曝する。

明石センター長も「使い方を知っている人が、自分の家でも検査しようとしているのか。一般の人の利用方法は無い」と首をかしげる。

イリジウムの入った装置の盗難事件は、74年8月、関西電力美浜発電所(福井県)でもあった。ゆすり目的の盗みで下請け業者の元従業員ら3人が起訴された。イリジウムも無事発見されている。